

令和元年6月26日現在

機関番号：28001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02247

研究課題名(和文) 南西諸島北部の民謡旋律の系統に関する発展的研究

研究課題名(英文) progressive research on the lineage of folk song melody about Northern Southwest Islands

研究代表者

久万田 晋 (KUMADA, SUSUMU)

沖縄県立芸術大学・付置研究所・教授

研究者番号：30215024

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、沖縄本島から奄美諸島にいたる島々の民謡旋律の系統的関係を、民俗音楽学的研究で蓄積された音源資料および分析方法により解明した。具体的には、喜界島全域に伝承される八月踊り旋律(7集落、延べ97旋律)について奄美大島の八月踊り旋律との比較分析を進め、系統関係についてほぼ明らかにした。また、沖縄本島北部のウステーク旋律と奄美諸島八月踊り旋律の系統関係についての分析を進め、系統関係については約6割程度について明らかにすることができた。この結果、南西諸島北部海域に位置する島々に伝播・伝承されてきた数多くの民謡旋律の系統関係を明らかにするという課題について、おおまかな見通しが得られたと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで奄美諸島は、琉球文化圏の一部に属すると考えられてきたが、沖縄本島地域と奄美諸島地域の間において、民俗音楽で伝承されている旋律についての伝播関係はごく一部に限られるとされてきた。しかし本研究結果からは、かなり広い範囲の旋律の系統関係が明らかになることが明らかとなった。沖縄から奄美諸島に至る多島嶼地域社会における民俗音楽文化の伝承・伝播のあり方について、新たな認識を得ることができた。この成果は、沖縄本島から奄美諸島との歴史的・文化的交流関係について今後再考を迫るものと言える。

研究成果の概要(英文)：This research revealed the propagation relation of lineage of folk song melodies between Okinawa main island and Amami Islands by using past materials and analysis method that has been accumulated in the research about folk music of Japan. Specifically, we have been implemented comparative analysis between the melodies of Hachigatdu-Odori in Kikai Island and the melodies of Hachigatdu-Odori in Amami Oshima island. At the same time we have analyzed lineage of folk song melodies between Okinawa Main Island and Amami Islands. We solved about 60% of the whole melodies. This result will lead to rough outlook on lineage of folk song melodies about Northern Southwest Islands.

研究分野：民俗音楽学

キーワード：南西諸島 民謡旋律 系統研究 民俗音楽学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで、南西諸島の民謡に関する音楽資料的研究としては、金井喜久子『琉球の民謡』(1954、楽譜、歌詞、解説)、山内盛彬『琉球の音楽芸能史』(1959、楽譜・歌詞・解説)、久保けんお『南日本民謡曲集』(1960、楽譜・歌詞)、杉本信夫『沖縄の民謡』(1974、楽譜・歌詞・解説)、『沖縄の民謡』(沖縄県教育委員会、1983、歌詞・解説)、『日本民謡大観 沖縄奄美』全4巻(日本放送出版協会、1989~1993、楽譜・歌詞・解説)などが公刊されてきた。また音源集成としては、『沖縄音楽総覧』(コロムビア、1965)を始めとするレコード類や、NHK 所有『日本民謡大観 沖縄奄美』の沖縄県分の音源のウェブ公開などがある。これらは、総じて民謡(一部に祭祀歌謡、古典音楽を含む)旋律の楽譜資料集、および音源資料であり、これらにおいては、琉球諸島の島々にいったいどれだけの数の民謡旋律が存在し、それらが互いにどのような系統や関係をもっているのかという包括的な姿は未だ明らかにされていない。小林公江・小林幸男は、1970年代初頭から沖縄本島各地の民俗音楽の悉皆調査を実施し、沖縄本島および周辺離島全域の臼太鼓・エイサー旋律の比較表を作成し系統関係を明らかにしている。さらに臼太鼓旋律が古典音楽旋律と成立において深い関係があるとの立場から両者の類縁関係を明らかにしている。これは沖縄の民俗音楽と古典音楽の成立に深い関係があることを指摘した点で、沖縄の伝統音楽研究史で比類のない成果である。申請者の久万田はこれら小林公江・幸男の沖縄本島での研究成果に連携接続することを目指して90年代以来、奄美諸島各地の八月踊り系芸能の音楽的調査研究を続けてきた(久万田1991、1992、1993、1994、1995)。

2. 研究の目的

本研究は、沖縄本島周辺から、奄美諸島、トカラ列島、種子島・屋久島・三島村という南西諸島北部に伝承されてきた民謡旋律の系統的關係を、申請者らによる民俗音楽学的調査研究で蓄積してきた音源資料および分析方法を駆使して解明してゆく。具体的には、沖縄本島の北部に位置する奄美諸島(奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島)の八月踊り系芸能の民謡旋律群と沖縄本島のウスデーク(臼太鼓)を中心とする民謡旋律群との系統的關係の全体像を描き出す。そこからさらに、トカラ列島、種子島・屋久島、三島村(竹島、硫黄島、黒島)までの領域での民謡旋律伝播状況を視野に入れ、南西諸島北部海域に位置する島々の間で伝播・伝承されてきた数多くの民謡旋律の系統関係を明らかにすることを目的とする。それによって多島嶼地域社会における民俗音楽文化の伝承・伝播のあり方を詳細に解明するものである。

3. 研究の方法

プロジェクト全体を**第1班(金城厚担当:比較分析、沖縄本島・奄美諸島)**と**第2班(久万田晋担当:資料整備奄美諸島・トカラ列島、種子島・屋久島、三島村)**に分けた。

第1班は琉球古典音楽と臼太鼓の間の旋律系統関係についての分析的研究および奄美諸島の八月踊り系芸能と沖縄本島のウスデーク(臼太鼓)の旋律系統関係についての分析研究を主に行った。

第2班は、三島村(竹島、硫黄島、黒島)、種子島・屋久島、トカラ列島、奄美諸島から沖縄本島におよぶ民謡伝播の資料収集・整備と分析研究の補佐を行った。

両班は各年度に成果発表の場を適宜設定して情報の共有をはかった。最終的には、沖縄本島から奄美諸島までの民謡旋律の系統關係の全体像の提示と、奄美諸島からトカラ列島、種子島・屋久島、三島村に至る民謡旋律の伝播、移動に関する見取り図を完成することを目標とした。

4. 研究成果

本研究は、沖縄本島から奄美諸島にいたる島々の民謡旋律の系統的關係を、民俗音楽学的研究

で蓄積された音源資料および分析方法により解明した。具体的には、喜界島全域に伝承される八月踊り旋律（小野津・城久・赤連・荒木・上嘉鉄・阿伝・佐手久 計7集落、延べ97旋律）について奄美大島の八月踊り旋律（笠利1区・用・秋名・西仲間・今里・湯湾・嘉鉄 計7集落、延べ185旋律）との比較分析を進め、系統関係についてほぼ明らかにした。現在、この分析に作成した喜界島八月踊り旋律楽譜について、発刊作業を進めている。

また、沖縄本島北部のウスデーク旋律と奄美諸島八月踊り旋律の系統関係についての分析を進め、系統関係については約6割程度について明らかにすることができている（論文作成中、2020年3月発刊予定）

この結果、南西諸島北部海域に位置する島々に伝播・伝承されてきた数多くの民謡旋律の系統関係を明らかにするという課題について、おおまかな見通しが得られたと考えている。

なお、奄美諸島以北（トカラ列島、種子島・屋久島・三島村）については、研究期間中には十分な調査・分析が行えなかったが、この点については今後の課題としておく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- ・久万田晋 近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程-エイサーを事例として- 現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践 -島嶼地域研究・教育の拠点形成- 2016年 pp.207-224
- ・金城厚 サウンド・アーカイブの夢 歴博 巻201 2017年 pp.11-14
- ・久万田晋 南城市の民俗芸能概観 沖縄県立芸術大学と南城市との包括連携事業 南城市地域民俗芸能調査委託業務報告書 2017年 pp.1-6
- ・金城厚 琉球箏曲《源氏節》と御船歌をめぐって 琉球箏曲保存階創立60周年記念誌 2018年 pp.77-82

〔学会発表〕(計9件)

- ・久万田晋 interaction between Eisa and Okinawan popular music The 12th International Small Island Cultures conference (第12回国際小島嶼文化会議)(国際学会) 2016年06月17日 沖縄県立芸術大学(沖縄県那覇市)
- ・金城厚 琉歌の起源に関する音楽学的考察 沖縄文化協会 2016年度公開研究発表会 2016年06月25日 名桜大学(沖縄県名護市)
- ・久万田晋 奄美大島の八月踊り-笠利町を中心に- 法政大学沖縄文化研究所しまうた研究会 2016年11月09日 法政大学沖縄文化研究所(東京都千代田区)
- ・久万田晋 喜界島と奄美大島の八月踊り旋律の系統関係 奄美沖縄民間文芸学会喜界島大会 2017年9月17日 喜界町役場コミュニティーセンター(鹿児島県喜界町)
- ・久万田晋 沖縄本島地域におけるエイサー伝播の現代的状況 沖縄民俗学会 2017年12月23日 沖縄県立芸術大学(沖縄県那覇市)
- ・久万田晋・金城厚 奄美・沖縄民謡調査資料のデータベース化と活用 <フォーラム型情報ミュージアムによる音楽関連資料の活用>に関する研究会 2018年3月5日 国立民族学博物館(大阪府吹田市)
- ・久万田晋 八重山音楽の特徴 創造農村ワークショップ in 石垣市パネルディスカッション 2018年10月17日 石垣市立図書館(沖縄県石垣市)
- ・久万田晋 奄美諸島の音楽芸能と諸鈍シバヤ 文化交流ネットワーク in 沖縄(APCN in 沖縄) 2018年12月20日 国立劇場おきなわ(沖縄県浦添市)

・久万田晋 エイサーの調査、研究、公開、蓄積(保存)について エイサー会館シンポジウム・
パネルディスカッション<エイサー会館の在り方> 2019年3月10日 エイサー会館(沖
縄県沖縄市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：金城厚

ローマ字氏名：KANESHIRO ATSUMI

所属研究機関名：沖縄県立芸術大学

部局名：音楽学部

職名：客員教授

研究者番号(8桁): 50183273

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。